

子育てひろばと協働した保育内容のプログラムの分析

「絵本の読み聞かせ」をテーマとするプログラムの感想の分析から

京林由季子
(岡山県立大学)

1 目的

筆者らは、将来の子育て支援者の育成に向けて、保育士養成課程における子育てひろばと協働した保育内容のプログラムの開発を試みている。その一環として、保育実践においても家庭での養育においても重要な意義をもつ絵本をテーマに、子育てひろばと協働して「絵本読み公演と講演会」を企画・実施した。

そこで本研究では、「絵本読み公演と講演会」のプログラムについて、参加した学生の感想の特徴を分析し、学生のプログラムへの参加のねらいや内容について検討することを目的とする。

2 方法

「絵本読み聞かせ公演と講演会」は、学内に開設されている子育てひろばの親子に授業への参加協力を得て、講師の親子への読み聞かせ公演を参観後、学生向けの講演会を実施した（表1）。講師には、国内外で活躍するプロの読み聞かせ士を招聘した。学生の主な保育体験は表2の通りである。

公演後に参加学生には自由記述による感想の提出を依頼した。分析対象は、1年生20名、2年生26名、3年生28名である。分析方法は、テキストマイニングソフト（KH Coder(Ver. 2. beta24)）を用い、関連語探索や共起ネットワーク等により、各学年の感想を特徴付ける語の分析を行った。

3 結果及び考察

1年生は、子どもが絵本の読み聞かせを楽しむ様子に注目していた。また、自分も楽しめたことや、子どもの時の絵本読みなど自分自身の絵本体験に言及していた。2年生は、“絵本”の教材としての多様性や意義に注目する傾向が見られた。絵本を選書してひろばの子どもと交流するプログラムを経験していることが影響していよう。3年生は、“絵本”の多様性や指導技術を“子ども”の発達や関わり方と密接に関連させて捉えている様子が窺えた。保育実習を経験していることが影響していよう。

本プログラム参加の経験を通して、学生の学びが深まるよう、講義・演習科目の中で、絵本の発達心理学的視点や社会文化的視点等を関連させて学ぶなど、教育内容についてはさらなる検討が必要であろう。

(本研究は、平成23年度岡山県立大学特別研究費による助成を受けている。)

表1 学生の保育体験の実態

年次	主な体験の内容
1年生	子育て広場の見学(1回)
2年生	子育て広場での親子交流プログラム(2時間程度)の実践
3年生	保育所実習(10日間)

表2 日程と対象

時間	題目	内容	対象
45分	絵本読み聞かせ公演	講師による絵本の読み聞かせの実演	ひろばの親子(15)、学生他(70名)
15分	休憩		
80分	絵本読み聞かせ講演会	講師による講話(絵本の魅力、幼児の絵本の楽しみ方、適切な絵本の選択、効果的な読み聞かせの技術)	学生他(70名)

表3 「絵本読み聞かせ公演」の感想 —各学年を特徴付ける語の抽出結果—

1年生		2年生		3年生	
特徴的な語	Jaccardの類似性測	特徴的な語	Jaccardの類似性測	特徴的な語	Jaccardの類似性測
読む	0.1982	絵本	0.3836	子ども	0.2944
子ども	0.1973	読む	0.2759	絵本	0.2619
楽しい	0.1212	思う	0.2269	思う	0.1756
自分	0.1163	聞く	0.1643	聞く	0.1243
聞かず	0.0992	絵	0.0957	声	0.1119
歌	0.087	学ぶ	0.0934	歌	0.1111
楽しむ	0.0781	大きい	0.0773	見る	0.1081
言う	0.0763	大人	0.0769	唇音	0.1079
絵	0.0741	良い	0.0761	使う	0.1014
コミュニケーション	0.0696	使う	0.0741	興味	0.1